

東洋大学附属牛久中学校 第9回卒業式 校長式辞要旨

春到来の本日、東洋大学附属牛久中学校第9回卒業証書授与式を挙げるにあたり、ご来賓並びに、多くの保護者の皆様のご臨席をいただきまして、盛大にかつ厳粛に挙げるできますことは、本校にとりまして喜びとするところでございます。心より厚く御礼申し上げます。

ただ今、卒業生62名の皆さんにお一人お一人に卒業証書をお渡ししました。改めて卒業生の皆さん、卒業おめでとうでございます。皆さんは小学校入学以来9年間の義務教育を修了するとともに、本校での中学校生活に終わりを告げます。

この間、ご両親を始め、家族の方々、そして、先生方の温かい励ましや指導により、立派に成長することができました。まずはこれらすべての方々に感謝の心を持ってほしいと思います。

保護者の皆様におかれましてはお子様のご卒業、誠におめでとうでございます。

本校は、1964（昭和39）年に創立され、一昨年4月に60周年を迎えました。今回9期生を送り出す中学校は、本校創立50周年を機に創立されました。

本校の母体となります、東洋大学の創立者、井上円了先生の建学の精神として、「諸学の基礎は哲学に在り」、「独立自活」、「知徳兼全」、を掲げております。これを基礎に本校の教育目標は、

一 知的好奇心と高い志をもち、自ら考え、自ら行動する意欲溢れる生徒の育成

二 深く考える力と本質に迫る健全な批判精神を培い、将来社会に貢献できる人材の育成

を目指してきました。また、教育方針の三に「魅力ある教育活動を展開し、地域社会に貢献する」として、具体的には、「国際理解教育」、「理数科教育・環境教育」、「中・高・大・地域の連携教育」の推進を掲げています。

学祖井上円了先生は、「体感」の必要性を実感され、現実世界を活きたテキストとして学び、活きた学問とする「活書活学」を提唱されました。体験の重要性については、本校では6年間を見通した体験的な活動や研修を行い、とくに一貫コースには充実した研修を行っています。

中学校段階では、2年生の時はフィリピンでの1週間の語学研修を体験し、3年生になってからは、昨年11月にオーストラリア連邦南オーストラリア州の州都アデレードでの2週間の語学研修、ホームステイの体験を行いました。本校の高校段階に上がると、京都への伝統文化研修を経て、シンガポールの研修があります。これらの体験活動から多くのことを学んで、成長してくれることを期待しています。

さて、予測不能なこれからの社会の在り方・方向性を考えてみると、「待てよ」と立ち止まって思考の前提条件や、解決策についての妥当性、正当性を自分の頭できちんと考察していくことが必要です。生成AIを活用することもあるでしょうが、必要なことは自分で考えることです。本校の実践する哲学教育の中では、特に「なぜ、なぜ、なぜ！の追究」を課題とし、体験的な活動から得た知恵や知識を活用して、多角的な見方、捉え方のできる思考力を養ってほしいと思います。これからの生きる指針としても大勢に流されることなく、「なぜ、なぜ？」の思考を重ねて行動してほしいと思います。

今年度の入学式の式辞でも触れた橋本左内の言葉を紹介したいと思います。

江戸時代末期、越前藩（現在の福井県）の武士で橋本左内という人物がいました。橋本左内は二十代早々に越前藩の藩校明道館の御用掛り・学監同様となり、藩校の中心となって越前藩士たちを教育、指導を行いました。その後、江戸詰めとなり、侍読兼御内用係を務め、藩主松

平慶永（春嶽）の側近として藩の政治、幕末の政局に大きな関わりをもちました。しかし、江戸幕府の大老井伊直弼による安政の大獄で、わずか25歳で、この世を去りました。左内は13歳から15歳の間、つまり現在では中学生の時代に相当しまししょうか。大人になる決意として、「啓發録」という書物をまとめました。当時の人たちの精神年齢は高く、十代前半というよりも三十代あたりの意識だと思います。

左内は大人になるための決意を五つの事柄にまとめました。

その第一には去稚心「稚心を去る」です。

去稚心とは幼い心を捨てる。子供っぽい心を捨てるということです。

第二が、振気「気を振るう」、負けじ魂と恥を知る気持ちを振るい立てて努力する。

第三が、立志「志を立てる」自分の進む道に対する決心を固める。

第四が、勉強「学問につとめる」先人の立派な行いに習って勉強に励む。

第五が、擇交友「交友を擇ぶ」自分にとって大切な友人を選んで交際を深める。

ということです。そして、「勉強するという事は、ただ技術を習ったり、知識を暗記したりするだけのことではなく、正直で誠実な心を持ち、人として正しい行動ができるようにするためのものである。」と記しています。さらに、「おさな心を克服し、親から自立しなければ、自分の道を歩むことはできない。」とも述べています。

これからの進む高校生活において、皆さんは橋本左内のように、自分自身の行動規範をしっかりともち、将来のあり方生き方を考え、夢や希望を実現するために、よく学び、仲間と協力し、心も体も鍛えていきましょう。そのためにも、節度を守り心身ともに健康な生活を送るよう心掛けてほしいと願います。

改めて保護者の皆様、お子様のご卒業まことにおめでとうございます。中学校の三年間はお子様たちの成長が最も著しい時期であります。高校の教師は中学校の先生方のご指導を経た生徒を受け入れ、社会に有為な人材、成人となるよう送り出します。

しかし、中学校の教師は、小学校を卒業したばかりのまだまだ子供の成長を見守り、手助けすることにより、成長した証しを確かめつつ日々共に過ごして大きな喜びを得ていきます。特に多感な中学校段階の三年間に立ち会い、成長を促すことができるのが中学校教師の一番のやりがいでもあります。

私自身、3年前に本校に着任して最初の宿泊行事が中学一年生のホームルーム合宿でした。その時のことを思い出すと、あの時の生徒がこのように立派に成長したのかと思うとひとしおの思いがございます。そのことは私たち教師ではなく、保護者の皆様が一番感じておられるところでしょう。

心からお喜び申し上げますとともに、3年間にわたり本校の教育方針をご理解いただき、ご協力いただきましたことを、本校教職員を代表して御礼申し上げます。

結びに、本日はご多用にもかかわらず、ご臨席を賜りました保護者の皆様方に心より感謝と御礼を申し上げますとともに、今後とも本校の教育に変わらぬご支援を賜りますことをお願い申し上げます、式辞といたします。